

2019/08/02

「NIE全国大会宇都宮大会」 宇都宮市文化会館

「**ディベート** (ディスカッション) & **ダイアログ** で  
**意見**を発信しよう」

—「ディベートを通して発信力を高め、  
ダイアログの実践を目指す」—

作新学院小学部 八島禎宏



# 『NIE 作新小の取り組み』

ステージ  
1

・ **学校紹介**

ステージ  
2

・ **作新小のNIE活動総論**

ステージ  
3

・ **授業の実際**

ステージ  
4

・ **授業のまとめ**





# 「受け身」から「能動」へ

## I 実践研究の概要

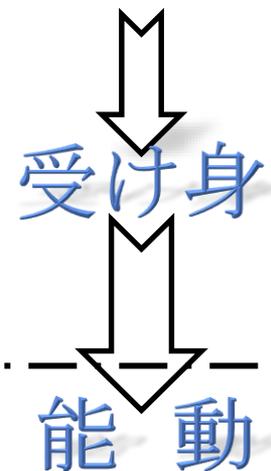
### 1.対象学年

- ・全学年(381名 1学年3クラス 1クラス約25名)

### 2.活動

- ・1～4年生;「朝の会」の時間に新聞記事から担任が選んだトピックスを聞く。
  - ・壁新聞づくり
  - ・各教科の学習の「まとめ新聞」づくり
- ・5～6年生;5年生「スクラップ新聞」づくり

-----  
;6年生「ディベート」「投書」



### 3.実践科目

- ・社会科、特活、他

### 4.公開授業クラス

- ・6年3組

### 5.研究テーマ

- ・「ディベート(ディスカッション)&ダイアログで意見を発信しよう」



# 授業テーマ 『作新民』 授業を展開しよう

時	学 習 活 動	指導上の留意点
1 〜 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最近読んだ新聞記事や身近な話題を整理する。</li> <li>・グループ活動や一斉授業の中で、題材として選んだ理由を発表しディベートに繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ディベートの題材になるような話題を事前に収集しておく。「1記事スクラップ」を活用する。</li> <li>・発表された意見について、賛否または批判・中傷はしないルールを確認する。</li> </ul>
3 〜 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事からディベートの題材を選ぶ。</li> <li>・チーム編成をし、ディベートのルールに従い、意見を交わす。</li> <li>・ダイアログ(対話)の視点から、相手側の誰の・どの意見に納得したかを振り返らせる。</li> <li>・シェアリングをする(ディベートから得られた「話すこと・聴くこと」について自己理解・他者理解を図る)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム編成は、授業者が機械的に組む場合とSGEのエクササイズ(ウォーミングアップ)を取り入れ楽しい自由な雰囲気づくりをしてから児童自身に肯定派・否定派を選ばせる場合とがある。</li> <li>・あくまでも「意見の立て方・議論のしかた」を学ぶものであることを確認する。</li> <li>・相手側の意見に納得し、自分の考えが変わった人は「引っ越し」をする。</li> <li>・大きな声、感情的な意見発表等、冷静な議論になっているか振り返りの時間を大切にす。</li> </ul>



# 授業テーマ 『作新民』 授業を展開しよう

## ◆ 授業の実際

### (1)ディベート

・普段の授業から、「今の発言は、ここがよかったね。」「あと、この部分を説明できれば、もっと良い意見になるね。」

⇒スモール・ステップ

⇒自己有用感・自己肯定感

・守らなければならないルールの確認

⇒『ノーサイド』

・主な題材

⇒「原子力発電は必要か」「領土問題と海底資源について」



# 授業テーマ『作新民』 授業を展開しよう

## ◆ 実践の感想と今後の課題

### 1. 実践の感想

#### (1) 児童の変容

・危惧

「意見の主張だけがクローズアップされ、自己主張の激しい児童が育ってしまう。」

・変容

「自分の話を聞いてもらおうと、すごく安心する。」

「認められた感じがする。」

「やった! という達成感を味わった。」

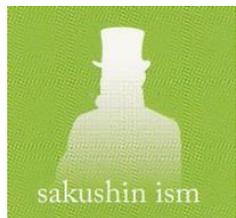
「相手の意見に納得するところがあった。」

(学級経営的には)



「しっとりした雰囲気が出てきた」

(授業者・職員室の声)



# 作新小のNIE活動総論(まとめ)

## ◆ NIEについて

- 一般論として、「NIEは、情報を受け取る」活動



『自主性や自発性・創造力』



『受け身の姿勢から能動の姿勢へ』

## ◆ 実践者の感想

- 新聞を身近に置き、普段から熟考する姿勢
- 学校だけでなく、家庭においても

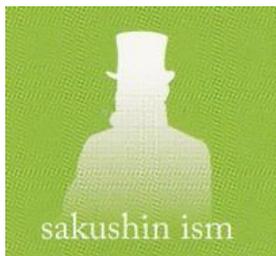


「深く考え、自分の言葉や文章に責任を持つ」



NIE

「小さな紳士・小さな淑女」



# 作新小のNIE活動総論(まとめ)

- ◆ 今後の課題
  - ・本校の実践

⇒述べること・書くこと

⇒発達段階・言葉の力

}  
高学年で展開



- ・今後の課題

⇒下学年において実践研究



# 作新小のNIE活動総論(まとめ)

## 「受け身」から「能動」へ

【学習指導・生徒指導】の伸び代の部分に触れる活動

※社会科に限らず、国語・総合的な学習・生活、etc

※認められ感、アサーティブな関わり、情報の取捨選択・責任、etc

『健康的な責任感のある社会人』

光村図書『学級討  
論会をしよう』  
(国語)のページ



下野新聞

『もったいない運動』

の記事 2018.4.11付け



下野新聞

『食品ロス』の記事

2019.3.15付け



# 建学の精神 「作新民」

- 「作新民」 ... 「時代の変化に対応して自らを常に新しくしていくとともに、時代に応じて変化する社会に対して積極的に働きかけ、社会を良き方向に変える能動的人間の育成の具現化を図る」



# 工夫点

- 勝敗を決めるためだけに終始してしまう傾向があることに気付いた。そこで、  
①意見を述べる前に、まず相手の話を聴かなければならないこと。②普段の授業において、「今の意見は良かったよ」とすぐにフィードバックをすること。③「あと、この部分の考えを深める努力をしてほしいな」と課題を与えること等を意識してきた。



# さらに重要な視点

- 日常生活において必要なことは、意見が対立関係にあったときに勝敗を決するという解決方法しかないわけではない。むしろ、“折り合いをつける”ことの方が大切だと言える。そこで、「ダイアローグ」という手法を取り入れることにした。



# 作新小オリジナルルール

- ディベートの延長線上にダイアログ(対話)を展開するのである。これにより、子ども達にはさらに深まった納得感・安心感が得られることとなった。ダイアログ(真剣な話し合いの中で、相手の意見を尊重しつつ自分の意見との違いを認識して相互理解を深めること)が実践されている場面は「相手の意見に納得した児童が“引越”をしている場面」である。
- これは本校オリジナルである。



# 結論

- 新聞を活用したNIEの学習活動が社会科の授業で実践され『読解力・表現力』の伸長が認められたと判断できた。
- 加えて、『相手を受け入れる姿勢(受容)』や『相手や自分自身を知ろうとする姿勢(他者理解・自己理解)』も育まれたことが確認された。



# ディベート(ディスカッション) & ダイアローグ “引っ越し場面”



# 『ディベート “引っ越し”場面 の動画』

